リーディングDXスクール事業　【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）（指定校）

【取組内容】①　一人一人の考えを共有しながら進める道徳の授業

No.	名前	あなたならどうする①	その理由①	その理由②	その理由③
1		あきらめる	助かるために何かするよりも自分が残りの人生で		
2		あきらめない	まだ助かる見込みがある	見込みがあるのに諦めたら努力が無駄になる	
3		あきらめる	治るかどうかどうかわからない状態で死のことに	死ぬことではなく死に付随する苦痛が来るのが怖	どうせいつか死ぬなら同情心とか何かがで安楽死
4		あきらめない	確率が低くても型が合う人がいるなら、まだ助か		

番号・名前を	1　今回の中堀由希子さんの話からあなたが学んだことや今	2　今日の授業の感想やもっと知りたいことや疑
10	な中掘さんがとても素敵で、自分もその思考になれたら良いなと思ったから。	素晴らしいなと思いました。そして同じ病気を患っる人にも声掛けをするという行動は当たり前ではな に自分からやっていく行動が魅力的に感じた。
26	中掘さんは自分のした辛い経験をみんなに共有し、できるだけ皆に辛い思いをしてほしくなかったのかなと思った。	ドナーは見つかっても、決して助かるわけではない うことはとても辛いなと感じた。
8	自分のしたいことはいつできなくなるかわからないので、できるうちにしたほうがいいと思った。	白血病について、なりやすさや今白血病になってい の数、どのくらいの確率で治るのかが気になった。
17	私は余命2年と宣告され、ドナーがなかなか見つからなかったときに中掘さんのように生きることはできないと思います。しかし、今回の授業を通して助かる可能性が少しでもあるのに自ら命を捨ててしまうのは良くないと考えることができました。また、骨髄ドナー登録や献血をして誰かを救いたいと思いました。	今回の授業の題材は実際の出来事だったため、自分 して考えることができました。また、クラスメイト 見交換をすることで自分の考えを広めることができ ても楽しい授業でした。
2	自分の人生がいつ終わっても後悔しないように生きたいと思った。	自分や他人の生命について深く考えることができた い命を大切にしたいと思いました
21	生きる喜びを忘れてはならないことを学んだ。だから支えてくれてる周りの人に感謝の気持ちを表す。	とてもシリアスな話で、少し貧血気味になった。
32	型が兄弟の中でも4分の1の確率でしか合わないことを知った。世の中の人を知ることが大事	「生きるとは」についてあまり考えたことないから かったです

道徳の授業では個人の思いや様々な価値に触れることで、自分の生き方を見つめ直したり、考えを深めたりすることが大切である。しかし、一斉授業の形式ではそれを実現するのに限度があった。

それを、スプレッドシートを使って入力・共有することで、即時的に仲間の選択や意見を確認することができ、その後の意見交流でも生徒が入力している内容を踏まえて、仲間とやりとりすることができるようになった。また、教師も書かれている内容を確認しながら生徒に問い返したり、生徒同士のマッチングに生かしたりすることができる。